

基本目標2**湘南の自然環境に
ささえられるまち****1. 湘南が誇る美しい自然景観の創生**

- 1) 海浜・水辺の美しい自然景観の創生 41
- 2) 緑地の豊かな自然景観の創生 42
- 3) 日常の生活空間に見られる自然景観の創生 43

2. 湘南の自然環境を守る生活・都市環境の整備

- 1) 廃棄物の徹底した減量とリサイクルの推進 44
- 2) 良好な水環境の整備 45
- 3) 自然環境汚染の防止と浄化 46
- 4) 自然環境に配慮したまちづくり 47

3. 湘南の自然の生態系維持

- 1) 多様な動植物環境の保全 48



基本目標2 湘南の自然環境にささえられるまち

1. 湘南が誇る美しい自然景観の創生

1) 海浜・水辺の美しい自然景観の創生

施策の目的

湘南海岸や境川、引地川など水辺の自然景観の保全・再生・創造を図り、都市の潤いを確保する。

現状と課題

- 海岸と河川の汚れ（ゴミの不法投棄、水質汚濁）の対策が求められている。
- 海岸や河川の美化のため、地域団体や市民の活動が活発化している。

施策の内容

- 県や近隣自治体との連携により、湘南海岸の自然・水辺空間の保全に努める。
- 境川、引地川、目久尻川、小出川の水辺空間の保全・再生・創造を図る。
- 海や河川の美化活動を行う地域団体や市民活動団体、市民等との連携を図る。

到達目標

- 海岸や河川など水辺の美しい自然景観の保全・再生・創造

主要な事業

- 湘南海岸の保全
- 海岸部の自然回復と河川の親水性確保
- 河川と海の水質浄化

海岸ごみ収集量

(単位 kg 藤沢市域分)

年度	可燃ごみ	不燃ごみ	合計
11	290,680	153,848	444,528
12	284,021	170,201	454,222
13	383,408	182,282	565,690
14	718,710	154,803	873,513
15	377,454	165,594	543,048

資料：環境管理課



海岸清掃のクリーンキャンペーン

基本目標2 湘南の自然環境にささえられるまち

1. 湘南が誇る美しい自然景観の創生

2) 緑地の豊かな自然景観の創生

施策の目的

快適で潤いのあるまちづくりのため、緑地の豊かな自然景観の創生を図る。

現状と課題

- 新たな土地利用に伴い斜面緑地が減少している。

到達目標

- 緑地の豊かな自然景観の創生

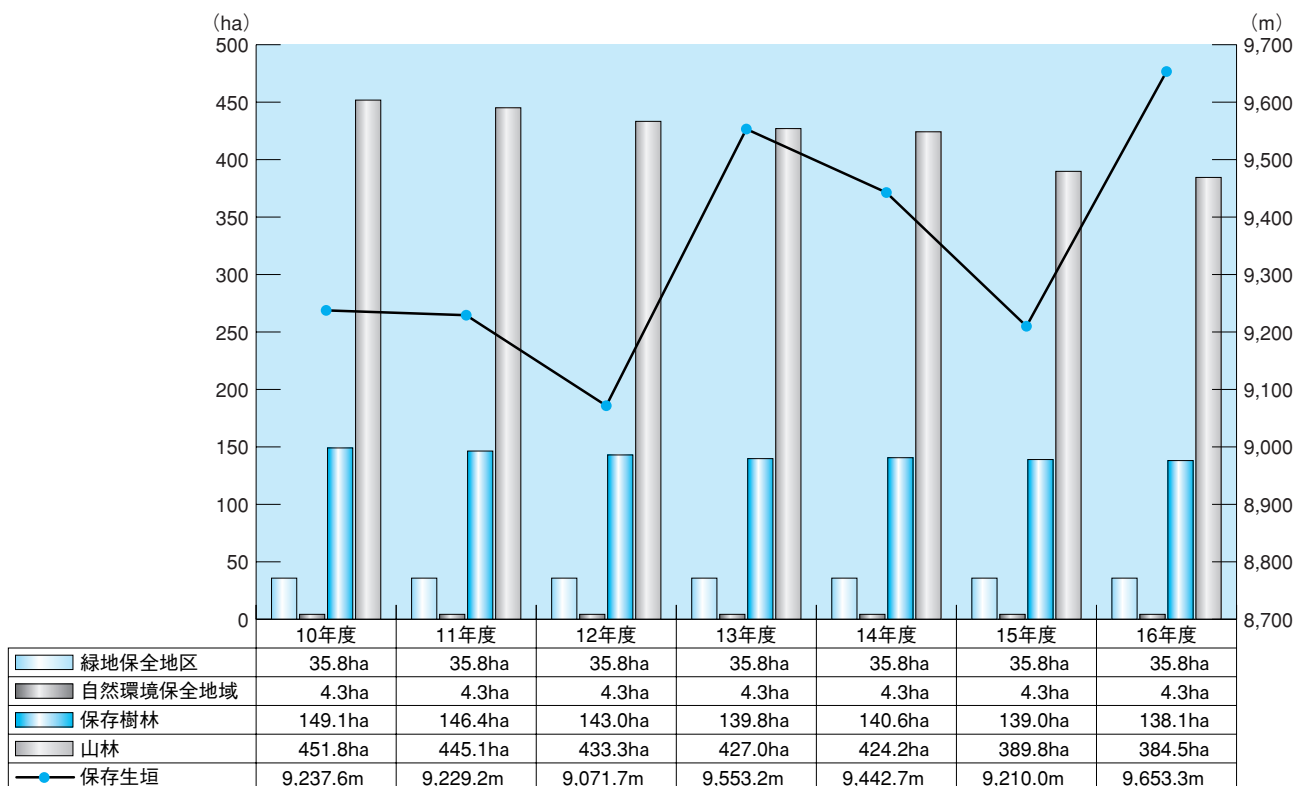
施策の内容

- 引地川、境川、目久尻川、小出川沿いの斜面緑地の保全に努める。
- 相模原台地、片瀬山などの斜面緑地の保全に努める。
- 西北部地域に広がる自然景観の保全に努める。

主要な事業

- 引地川を中心とした緑の軸線と拠点の整備
- 特別緑地保全地区の指定区域の拡大

緑の推移



資料：公園みどり課

基本目標2 湘南の自然環境にささえられるまち

1. 湘南が誇る美しい自然景観の創生

3) 日常の生活空間に見られる自然景観の創生

施策の目的

快適で潤いのあるまちづくりのため、街路樹、生け垣など日常の生活空間に見られる自然景観の形成を図る。

現状と課題

- 相続などによる、敷地の細分化に伴う宅地内の生け垣や樹木の減少への対応が必要である。
- みどり豊かな潤いのあるまちづくりをめざして、市民団体やボランティアなどの活動が活発になっている。

施策の内容

- 保存生け垣の指定、生け垣の奨励など宅地における緑化の推進を図る。
- 街路樹の植栽を推進し、緑豊かな道路づくりを推進する。
- 工場・事業所などの緑化の普及啓発、整備を促進する。
- 緑化推進団体や地域住民の活動との連携を図る。

到達目標

- 快適で潤いのある自然景観の形成

主要な事業

- 街路樹や生け垣などの緑化の推進
- 工場、事業所の緑化の促進
- 緑化推進団体、地域活動団体、市民との連携

緑化推進事業の現状

(2005.3.31現在)

区分	数値
緑地保全地区	35.8ha
保存樹林	138.1ha
保存樹木	1,548本
保存生垣	274箇所 9,653.3ha
緑の広場	32.8ha
緑化協定敷地面積(累計)	1,538.0ha
緑化協定緑地面積(累計)	311.9ha

資料：公園みどり課



藤沢市みどりいっぱい市民の会による草刈り（稲荷）

2. 湘南の自然環境を守る生活・都市環境の整備

1) 廃棄物の徹底した減量とリサイクルの推進

施策の目的

廃棄物の発生抑制、再利用（リユース）、再資源化（リサイクル）により、徹底した減量をすすめた上で、適正処理を行い、持続可能な循環型の都市をめざす。

現状と課題

- ごみの発生抑制、減量、分別の徹底化、生ごみの処理などが課題である。
- プラスチック製容器包装の更なる資源化のため、リサイクル意識の高揚が必要である。
- 環境に配慮し、ごみを適正処理する施設の整備が必要である。
- 現在稼働している北部のごみ処理施設は老朽化により処理能力が低下し、修繕費が増大してきており、焼却能力の維持を図るため、北部焼却処理施設の1号炉を更新する必要がある。
- 資源化施設の老朽化が進んでいる。
- 焼却灰の溶融化は最終処分場の延命に寄与している。
- し尿、浄化槽汚泥を衛生処理することにより、生活環境の保全と公衆衛生の向上を図る必要がある。
- 道路、海岸、河川についてはごみの不法投棄やポイ捨ての防止、また公衆便所などは清潔に保つことが課題となっている。

施策の内容

- 廃棄物の発生を抑制し、再利用と再資源化により減量の徹底を図る。また、ステーション方式から戸別収集への転換と有料指定袋制の導入を検討する。
- ペットボトル、その他プラスチック製容器包装などのプラスチック系廃棄物の中間処理を行い、リサイクルをすすめる。
- 老朽化した北部環境事業所1号炉の更新に着手する。
- 資源化や再利用を担うリサイクルプラザの検討をすすめる。
- 石名坂環境事業所は、南部拠点施設として、ごみ処理能力の維持に努める。
- 焼却灰の溶融化と再利用により、最終処分場の延命を図る。

- 公共下水道に接続されていない家庭等のし尿等の処理を行う。
- 河川ゴミの除去、不法投棄パトロール、公衆便所の維持管理を行う。
- ポイ捨て防止に対する市民意識の高揚を図る。

到達目標

- 2010年度の市民1人当たりのごみの排出量を1997年度と比較して20%減量、及び廃棄物の資源化率30%以上とする。

主要な事業

- ごみ収集のステーション方式から戸別収集への転換と有料指定袋制の導入を検討
- プラスチック製容器包装のリサイクル促進
- 北部焼却施設1号炉の公設民営方式による整備
- リサイクルプラザ構想の研究
- 既存焼却施設の適正な維持管理
- 焼却灰の溶融化と再利用
- し尿処理
- 環境美化を推進する条例化の検討

ごみ処理の現況

(平成16年度実績)

人口(平成16年10月1日)	392,810人
ごみ総量	147,857 t
可燃ごみ	99,570 t
不燃・大型ごみ	18,775 t
資源ごみ	29,512 t
市民一人あたりの排出量	1,028 g/日
市民一人あたりの清掃費用 (平成15年度)	13,654円

資料：環境管理課

基本目標2 湘南の自然環境にささえられるまち

2. 湘南の自然環境を守る生活・都市環境の整備

2) 良好な水環境の整備

施策の目的

公共用水域の水質を保全する。

現状と課題

- 下水道処理水と下水汚泥の有効利用を図る必要がある。
- 下水道施設の老朽化対策や維持管理について検討する必要がある。
- 合流式下水道から雨天時に公共用水域に越流することによる汚濁負荷量を削減するなど合流式下水道の改善を図る必要がある。
- 水質監視と管理体制の強化を図る必要がある。
- 都市化の進展による相対的な下水道整備水準の低下を解消する必要がある。
- 10年に1回程度の大雨に対して浸水する区域の解消を図る必要がある。
- 市街化調整区域で公共下水道認可区域外における生活排水対策と河川等公共用水域の汚濁防止が課題である。
- 新市街地の一部の区域で、未整備の公共下水道を早期にすすめる必要がある。

施策の内容

- 省資源、省エネルギーへ向けて、下水汚泥の減量化及び下水道資源や施設の有効利用を図るための調査及び研究をすすめる。
- 管渠、ポンプ場、浄化センターの効率的でかつ経済的、計画的な維持管理をすすめる。
- 合流式下水道改善など下水道に求められる多様な役割に対応する下水道施設の高水準化を図る。
- 市街化調整区域で公共下水道認可区域外において、水質汚濁を防止するため、合併処理浄化槽設置を推進する。
- 新市街地の公共下水道の未整備区域の整備推進を図る。

到達目標

- 下水道施設機能の適切な維持管理
- 下水道資源・施設の有効利用
- 公共用水域の水質保全

主要な事業

- 省資源、省エネルギーへ向けて、下水汚泥の減量化や下水道資源や施設の有効利用を図るための調査と研究
- 管渠、ポンプ場、浄化センターの建設（改築、更新を含む）と維持管理
- 貯留管建設など合流式下水道の改善
- 合併処理浄化槽設置への助成
- 新市街地の公共下水道整備の促進

下水道の状況

	認可区域面積 (ha)	整備区域面積 (ha)	整備区域内人口 (人)	行政人口普及率 (%)
平成11年度	5,077.9	4,222.2	335,275	89.3
平成12年度	5,077.9	4,294.4	345,516	91.5
平成13年度	5,153.6	4,324.3	351,395	92.0
平成14年度	5,153.6	4,385.6	358,471	92.9
平成15年度	5,153.6	4,417.2	362,642	93.2

※行政人口普及率＝整備区域内人口／行政人口

資料：土木計画課



辻堂南部貯留管内部

基本目標2 湘南の自然環境にささえられるまち

2. 湘南の自然環境を守る生活・都市環境の整備

3) 自然環境汚染の防止と浄化

施策の目的

環境に対する負荷が小さく、大気・水・土壌などが常に清らかで安全であり続けるまちをつくる。

現状と課題

- 水質については公共下水道の普及により徐々に改善している。大気については自動車排出ガス対策効果を上げているが、環境基準を超えている物質への対策をすすめる必要がある。
- ダイオキシンを含む環境ホルモン等有害化学物質の環境中の汚染状況の把握と、その対策に努める必要がある。
- 行政は正確な環境情報を提供し、事業者や市民とともに十分理解し、共有することが必要である。
- CO₂の増加による地球温暖化の防止のために対策をとる必要がある。

施策の内容

- 大気・水・土壌などの環境汚染監視と調査分析、また工場など事業所の監視と指導を行う。
- 環境中のダイオキシン類を含む環境ホルモン等有害化学物質について、汚染状況を把握し県と連携・協力して対策を行う。
- 環境に関する啓発活動を行い、また環境共生まちづくり支援システムを運営し、情報提供と情報交換に努める。
- 地球温暖化防止のために、省エネルギーの促進、自然エネルギーの活用、太陽光発電設置者への助成、自動車交通の抑制、低公害車の利用促進などを行い、CO₂の排出削減を図る。
- 市役所が事業所として環境マネジメントシステムISO*1 14001を認証取得したことにより、環境保全率先実行計画を推進するとともに、環境保全に対する市民意識の啓発や市民の実践への支援を行う。

*1 ISO(国際標準化機構)・・・工業規格や企業行動の標準化を目的とする規格に関する国際機関で、規格や用語の国際標準を判定する。規格には環境管理・監査、環境ラベル品質管理などがあり、このうち環境管理・監査に関する規格に14001が付番。

*2 グリーン購入・・・商品やサービスを購入する際に、価格・機能・品質だけでなく、環境への負荷ができるだけ少ないものを優先的に購入すること。

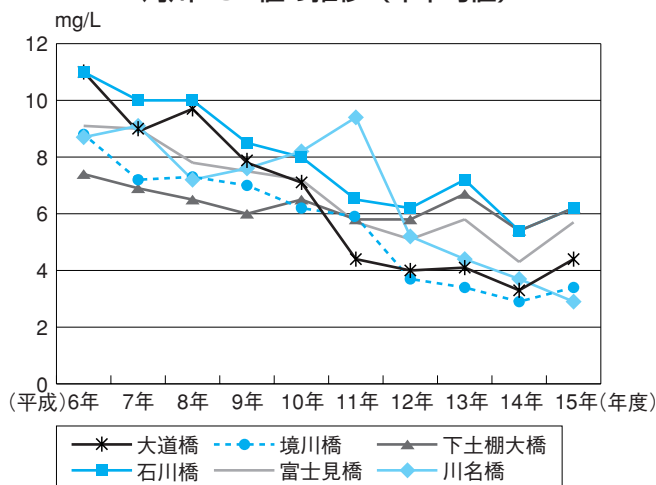
到達目標

- 大気・水・土壌などそれぞれの項目で、国の環境基準又はそれに準ずる指針値以下の達成
- 2010年度の市民1人当たりの年間エネルギー消費量を1997年度と比較して10%削減
- 2010年度の市民1人当たりの年間上水使用量を1997年度と比較して10%削減

主要な事業

- 環境汚染防止対策の推進
- 有害化学物質対策の推進
- 環境啓発と環境情報システム運営
- 環境基本計画の見直しと地球温暖化対策地域推進計画の策定
- 省エネルギーなど地球温暖化対策の推進
- グリーン購入*2の推進
- 地域新エネルギービジョンに基づく自然エネルギー活用(公共施設での太陽光発電利用や設置助成)の推進

河川BOD値の推移(年平均値)



※BOD値・・・生物化学的酸素要求率

資料：環境保全課

基本目標2 湘南の自然環境にささえられるまち

2. 湘南の自然環境を守る生活・都市環境の整備

4) 自然環境に配慮したまちづくり

施策の目的

環境と共生する環境負荷の少ない資源循環型のまちづくりの実現をめざす。

現状と課題

- 西北部地域では、これまで農業を中心とするまちづくりをすすめてきたが、道路などの都市基盤施設やコミュニティ施設などの生活環境の施設整備が遅れている。また、農家の後継者不足などから高付加価値型の農産物の生産などが望まれている。
- 葛原地区に計画されている「新産業の森」の形成をはかる際には、自然環境を生かし、施設の緑化を誘導するなど、緑豊かなものにすることが望まれている。
- 「健康の森」の事業区域内には、樹林地生物、特に国内希少野生動物の「オオタカ」が生息しているなど、貴重な自然が残っており、施設の整備に際しては周辺環境と調和した、生物が生存しうる環境の創造に配慮する必要がある。
- 市街化調整区域の幹線道路沿いでは都市的土地利用の需要が高まっている。また、生活基盤施設整備や地域の活力増進のため、選択的かつ秩序ある土地利用が求められている。

施策の内容

- 西北部地域を中心として、地域に大切な自然環境や農業環境を保全し居住環境と調和を図る環境共生型都市づくりをすすめる。
- 新しい産業の立地誘導を促す高速交通幹線道路や生活道路などの都市基盤の整備を図る。
- 都市拠点「健康と文化の森」における高度医療機能等の都市機能の集積と充実を図る。
- 豊かな自然を生かした「水と緑のベルトゾーン」の整備をすすめる。
- 公共交通の利便性の向上を図る。
- 市街化調整区域の幹線道路沿いなどの土地利用の検討をすすめる。

到達目標

- 田園環境と調和し、自然環境に配慮したまちづくりの実現

主要な事業

- 田園居住地の整備
- 地区内連絡道路の整備
- 相鉄いずみ野線の湘南台駅以西への延伸の検討
- (仮称) 新南北線の整備の検討
- 健康の森整備事業の推進
- 目久尻川、小出川、打戻川周辺地区の「水と緑のベルトゾーン」の形成
- 慶應義塾大学周辺地区の研究開発施設等の立地に向けた土地利用誘導方策の推進
- 市街化調整区域における幹線道路沿いなどの適正な土地利用誘導方策の検討



目久尻川周辺



小出川周辺

3. 湘南の自然の生態系維持

1) 多様な動植物環境の保全

施策の目的

緑地の保全と確保を図り、また、動植物の生息・生育環境を大切にすることによって、自然と人が共生するまちづくりを行う。

現状と課題

- 2004年4月1日現在では市民1人当たり公園緑地等面積は11.1㎡である。
- まとまった緑をふやすための対策と樹林樹木や里山、谷戸の維持管理が必要である。
- 動植物の生息にかかせない湧水が発生している場所や河川の水辺の整備と保全が必要である。
- 動植物環境に関する基礎的なデータ収集と調査（自然環境実態調査）に基づく生態系維持が必要である。
- 都市緑地を守るため、緑化の普及啓発が必要である。

施策の内容

- 特別緑地保全地区の指定拡大や「みどり基金」による緑地の取得を図る。
- 保存樹林・保存樹木・憩いの森などの指定や面積の拡大と、下草刈り、病虫害の防除など維持管理を行う。
- 市民による里山や谷戸の管理を推進する。
- 湧水、河川の水辺環境の整備と保全をすすめる。
- 自然環境実態調査結果に基づき、自然環境の保全を図る。
- 緑いっぱい運動など緑化のための普及啓発活動を強化する。

到達目標

- 緑地の保全及び動植物にとっての良好な生息・生育環境の保全
- 2010年度の市民1人当たりの公園緑地等面積を概ね20㎡とする。

主要な事業

- 特別緑地保全地区等の拡大
- 保存樹林や憩いの森の維持管理
- 湧水、河川の水辺環境の整備と保全
- ビオトープ*整備基本計画の策定
- 緑化推進運動

*「ビオトープ」…ドイツ語でBio（生物）、Topo（所）を意味する。学術上、生物圏の地域的な基本単位をさし、動植物の生息地、生育地と言った意味で用いられる。



引地川特別緑地保全地区